

＜校内研究授業分析シート 月 日＞平成23年度版

研究主題「意欲的に自ら表現し、課題を解決しようとする生徒の育成」
一つながりを感じる活動の場の設定を通して一

授業者 先生(科) 記録者()

(本時の主眼・・・)

評価結果【A：優れている B：おおむね達成できている C：改善を要する】

＜本校研究テーマに関わる内容＞

1 学習活動が主眼達成に迫れたものであるか。 【 】

手立てが有効であったか生徒の様子から見取ってください。 【気づいたこと】

2 教師の発問は生徒の考えを促すものであったか。 【 】

気づいたこと 【改善点・代案】

3 その他：授業づくりの基本に関わる内容等

授業者へのメッセージ等

※この分析シートは事後研の後、授業をされた先生へ渡してください

(A)グループ

	手立てについて	発問について
成果	<ul style="list-style-type: none"> 活発な話し合いで、多面的な考察ができていた。 自分がもし身内だったらといった感情で話し合えていた。 判決を導くために、被害者が働いているかいないかなどや被告の態度を見るなど。 	<ul style="list-style-type: none"> 話がずれないように、作業前に適切な指示があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●、●に発表をさせたら、書いていまして終わった。 班でまとめるきっかけがつかめていなかった。 GTの活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠と理由の混在した発問だった。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> 普段から生徒の発言に注意しておく。物事を良く考えて発言させるなど。 その発言で、人の人生が大きく変わるということを伝えるひとことを授業で入れる。 多数決で決めるのか、話し合いを深めていくのか押さえる必要がある。 個→班→全体→個に返す場を設定。 懲役か執行猶予かの班での交流の観点を挙げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由にしほり、問い返しを繰り返すことで、生徒の思考を深くする。

(B)グループ

	手立てについて	発問について
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ GTを読んだことで生徒の関心が高まった。 ・ 学習プリントの最初に個人の判決、授業後の判決など自分以外の考えを受け入れてからの意見の変化が興味深い。 ・ 「模擬裁判の判決を下そう」という課題は有効。内容もどちらにも転がるということで話しやすい。 ・ 模擬裁判の傍聴は、生徒の興味関心を高めるのに大変有効であった。 ・ 班の中で意見が分かれるので話し合いが高まる。(交流のよさ) ・ 意見が分かれて議論が活発な班が多かったので課題設定は適当だった。 ・ 会議が長引き、意見も分かれるような裁判内容を設定している点が適切であると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間巡視で、表現の苦手な生徒への支援が適切になされていた。 ・ 発表を自分からしない生徒の発言を促す手段が興味深かった。 ・ 無駄のない適切な発問。声の大きさやトーンなども良かった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答えが一つでない。複数の答えがある方が面白い。 ・ 例えば、班の中で、4対1などの少数派の意見も面白かったのだが、授業の中でスポットが当たりにくいのが残念。 ・ 交流が下手な生徒の手立て。 ・ 班の意見を一つにまとめるのは難しい。 ・ 自分の考えを根拠を持って意見を述べるには、設定が少々難しい。(知識・経験不足) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ とにかく結論を出してしまうように、というだけでなく、制限時間近くにはもう少し指示を出しても良いかもしれない。と思った。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ あえて少数派の意見を班から出していく授業展開にしていく。(別枠が必要) ・ 学級の中で指導を習慣づけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 執行猶予の生徒→自分の親だったら許せない。

(C)グループ

	手立てについて	発問について
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人の考えをまとめさせグループ活動へ→意見を出しやすい。 ・ 模擬歳判という体験が生徒の意欲を喚起した。 ・ GTの話を直接聞けることが生徒への興味を高めた。 ・ 活発な意見交流がなされていた。 ・ 班会議で意見交流が活発に行えた。 ・ リーダーの進め方がうまい。 ・ 班としての判決を出せていた。 ・ 自分の考えを述べるできていた。 ・ 4班、反対意見の人に質問していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いの心得はGOOD ・ 「話し合いの心得」で自分が言うこと根拠を大切にすることが強調された。 ・ 「自分の判決で他人の人生が決まるのでしっかり根拠を考えて」というところで生徒が真剣だった。 ・ 「被害者の妻が働いていないで判決が変わるの？」に対し、きちんと根拠を述べるできていた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多面的な見方、多角的な見方の焦点化があればよりよいが。 ・ 班の意見が分かれたときのまとめ方。 ・ 時間が不十分だったのが残念。 ・ 班内の意見が分かれているときの班の意見のまとめ方についての指導。 ・ 全体交流の中での根拠の類別による整理。→意見 ・ 個人の意見は良く書いていたが、言い張る生徒もいて、話し合いに深まりが見られなかった。 ・ 全班が一斉に話し合うことの是非について悩んでいる。 ・ 周りが騒がしくなると、共感的意見が出にくいのでは(言い張る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な見方、考え方ができなかった。1つの考えに対して切り返す発問
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 判決は異なっても根拠はほぼ同じであったので、そこをとらえる方法はないか。 ・ 例えば、○一つの班が話し合い、それを見る。 ○学級全員でする。 	